

## 会長挨拶

### 開催にあたって



### 中條 浩介

香川大学医学部附属病院／麻酔・ペインクリニック科准教授

この度、日本ペインクリニック学会 第2回中国・四国支部学術集会を開催させていただけることをまことに光榮に存じます。

ちょうど2年前の2020年初頭に世界的流行が始まった新型コロナウイルス感染症は、昨年も日本中を第4波、第5波と襲いましたが、9月頃より終息の兆しがあり、様々な規制が緩和されたため、11月の時点で高松市での現地開催を一旦、決定いたしました。多くの学会・研究会がWEB開催となり、Face to faceでの「集い」がほとんど無くなった状況を鑑み、従来どおりの開催ができる喜びを込めて、「集う」をテーマに選びました。しかし、年始早々の新たな変異株（オミクロン株）による急激な第6波の出現を受け、急遽、WEB開催に変更することを余儀なくされました。中国・四国支部会員の皆様には、ご迷惑をおかけしましたことを、この場をお借りし、深くお詫び申し上げます。

さて、2月19日のWEB学術集会では、教育講演Ⅰとして、すみよし小田法律事務所／香川大学麻酔・ペインクリニック科の小田祐資先生に「裁判例に学ぶ、安全管理で求められる医療水準」、教育講演Ⅱとして、信州大学医学部 麻酔蘇生学教室の田中 聡先生に「急性術後痛遷延化のリスクファクターとそのメカニズム」のタイトルでご講演いただきます。また、特別講演として、名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学の杉浦健之先生に「いたみセンターにおける慢性痛のチーム医療」のご講演をお願いいたしました。さらには、済生会西条病院の長櫓 巧先生が創設された第19回中国・四国ペイン塾を、ランチョンセミナーとして開催いたします。講師は信州大学医学部附属病院 信州がんセンター緩和部門の間宮敬子先生にお願いし、「痛みと漢方」というタイトルでご講演いただきます。

また、シンポジウム「慢性術後痛の治療」と一般演題におきましても、興味深い症例ならびに研究の報告がございます。こちらは、会期後の1ヶ月間、日本ペインクリニック学会ホームページ上で閲覧できるようにいたします。ご議論、ご討論をしていただくことは残念ながら叶いませんが、お時間の許す限り、じっくりと閲覧していただければ幸いです。

最後になりましたが、来年の第3回中国・四国支部学術集会（会長：島根大学医学部 緩和ケア講座 中谷俊彦先生）では、多くの会員の皆様が一堂に会することができるよう祈念いたしております。

令和4年1月吉日